



- ① 収集車に積載されたごみは、プラットホームからごみピットへ投入されます。
- ② ごみピットに溜めたごみは、ごみクレーンで燃えやすくなるようにかき混ぜてから、焼却炉の入口、ごみ投入ホッパ・シートに運ばれます。
- ③ ごみ投入ホッパ・シートに投入されたごみは、給じん装置により、焼却炉の中に押し出されます。
- ④ 焼却炉は、火格子の上で、ごみを燃やして灰にします。
- ⑤ 焼却炉の内部では、まず乾燥エリアで、投入されたごみを乾燥させます。
- ⑥ 乾燥されたごみは燃焼エリアに送られ、850°C以上の高温で燃やされます。
- ⑦ 最後に後燃焼エリアで、燃え残りがないよう、完全にごみを燃やします。
- ⑧ ごみを燃やした際に発生した高温の排ガスについてはエコノマイザや減温塔で200度以下まで温度を下げます。
- ⑨ 排ガス中の有害物質を反応、吸着させるために、活性炭と消石灰を吹き込み、ろ過式集じん器に送ります。
- ⑩ 集じん器の中にあるろ布というフィルタで、ばいじんなどの有害物質を取り除きます。
- ⑪ 安全になった排ガスは、煙突から放出されます。
- ⑫ 焼却した後の焼却灰は、灰冷却装置の水槽で冷却された後、灰ピットに溜められます。
- ⑬ 排ガスと共に舞上がった飛灰については、減温塔やろ過式集塵機で集められ、キレートなどの薬品を加え、安全に処理されたあと、飛灰固化物ピットに溜められます。
- ⑭ 灰ピットと飛灰固化物ピットに溜められた灰は、積出場でクレーンによりトラックに積み込まれ場外に搬出されます。搬出された灰は最終処分場で埋め立てられます。
- ⑮ ボイラーでは焼却炉でごみを燃やした時の熱を使って蒸気を発生させます。
- ⑯ 作り出された蒸気は蒸気タービンに送られ、蒸気の力でタービンを回し、発電を行います。発電した電気は場内で利用されるほか、送電網を通って売電されます。
- ⑰ 発電に使われなかった蒸気は、場内の空調に使用されるほか、蒸気の熱でお湯を作り、場内や長寿センターなどの近隣施設で利用されます。